

都市公園の老朽化対策【国土交通省】

施策概要 都市公園においてインフラ長寿命化計画に基づき老朽化対策を実施

効果 都市公園の管理において予防保全型管理への移行を図るとともに、発災後の避難地や防災拠点としての機能を確保

全国的な対策と効果

令和5年度時点で、約**38,000**箇所の都市公園において、緊急度の高い老朽化した公園施設の改修を実施

【遊具の老朽化対策】



➢ 遊具の老朽化対策を行うことで、災害時に避難生活が長期化する場合にも多様な世代が体を動かすことができる都市公園の機能を維持することに繋がり、**多数の被災者の健康・心理状態の悪化を防止**

【老朽化した給水管の改修】



漏水状況と園路規制



➢ 老朽化した給水管の改修及びループ化(給水管を網の目につなげる配管)工事を実施することで、**漏水件数が減少**するとともに、ループ化により**漏水時にも主要施設の断水を回避**することが可能となる

■ 予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
125億円	54億円	49億円
R6	R7	累計
23億円	24億円	274億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

■ 目標達成の見通し



【KPI】インフラ長寿命化計画を策定済みの都市公園(令和元年度時点:約66,000公園)のうち、緊急度の高い老朽化した公園施設の改修等の対策を実施できている都市公園の割合

整備事例

老朽化した受変電設備の更新により、災害時等の電力供給機能を確保する



国土交通省 関東地方整備局
国営昭和記念公園事務所



なめりかわまち
埼玉県比企郡滑川町



国営公園等事業
(国営武蔵丘陵森林公園)

■ 老朽化した受変電設備の更新



対策前



対策後

■ 事業費

0.6億円 (うち5か年加速化対策(加速化・深化分)0.6億円)

■ 事業の背景(地域の課題)

国営武蔵丘陵森林公園は、埼玉県比企郡滑川町と熊谷市にまたがり、年間約80万人が利用する304haの国営公園です。また、災害時には周辺自治体の一時避難場所等やTEC-FORCE※の災害対策拠点として利用されています。しかし、開園から約50年が経過し、園内の各施設が老朽化し、確実な機能の確保を進める必要がありました。

※国土交通省緊急災害対策派遣隊「TEC-FORCE(テックフォース)」は、大規模な自然災害時に、被害状況の迅速な把握、被害の発生及び拡大の防止、被災地の早期復旧などに取り組み、地方公共団体を支援する部隊です。

■ 事業の内容

国営武蔵丘陵森林公園内に電力供給している受変電設備について、老朽化対策として、設備の更新を実施しました。

■ 見込まれる効果

老朽化した受変電設備の更新により、信頼性の高い電力供給が可能となり、通常時の園内利用者の快適かつ安全な利用及び、災害時等の円滑な避難誘導や防災拠点としての機能の確保が期待されます。

令和元年台風19号での災害出動▶

国営武蔵丘陵森林公園は、国土交通省緊急災害対策派遣隊「TEC-FORCE」の大規模災害発生時における災害対策拠点となっています。



(1) 人命・財産の被害最小化
1 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

(2) 交通・ライフラインの維持

2 インフラの老朽化対策

(1) 3 施策のデジタル化
国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進

(2) 災害関連情報の高度化